

【平成32年3月刊行】第1巻

目次案【通史編 原始】

部分監修者:高山優

| 目次 ※項は変更あり | 内容 | 執筆者 |
|---|--|----------------------------------|
| 口絵 平和都市宣言 刊行のごあいさつ 刊行にあたって 凡例 目次 | | — — 区長 編さん委員長 — — |
| 序章 原始の港区域 | | 高山優 |
| 第1章 港区の考古学研究史 | | |
| 第1節 近代考古学史の人びとと港区 | | |
| 第1項 坪井正五郎と鳥居龍蔵 | 日本(区内)の近代人類学・民俗学・考古学の創成期を牽引した2名の研究者について、港区との関係を中心に解説 | 岡崎完樹 |
| 第2項 元棚倉藩主・阿部正功の事績 -華族の考古学 | 阿部正功と彼が区内で行った調査について | 高山優 |
| 第2節 大学と東京都教育庁の調査 | | |
| 第1項 大正から昭和戦前期の考古学調査 | 谷川(大場)磐雄・鳥居龍蔵・江坂輝彌等による調査を中心に | 岡崎完樹 |
| 第2項 形質人類学者と遺跡調査 | 工事中の人骨不時発見や改葬に伴う形質人類学者の調査について | 高山優 |
| コラム 慶應義塾大学考古学研究室の人びと | 戦前・戦後の文化財保護を支えた人物と講義・研究について | 渡辺丈彦 |
| 第3節 行政調査の時代 | | |
| 第1項 伊皿子貝塚遺跡の発掘調査 -区内最初の本格的な行政調査 | 区主導の初めての本格的な行政調査の意義を中心に | 岡崎完樹 |
| 第2項 近世遺跡調査の始まりと展開 | 行政調査として発掘された近世遺跡について | 高山優 |
| 第3項 行政調査の展望と課題 | 行政調査の現在と今後について | 岡崎完樹 |
| コラム 行政調査を牽引する人びと | 行政調査をリードしてきた二人の研究者について | 高山優 |
| 第2章 旧石器時代 | | 渡辺丈彦 |
| 第1節 旧石器時代の自然環境 | | |
| 第1項 気候と地形の変化 | 最終氷期寒冷気その後の気温上昇と関東地方の海岸線形成について | |
| 第2項 段丘面の形成 | 現在の武蔵野台地の原型の形成について | |
| 第3項 動植物相の変化 | 気候や環境に適応し変化した植物相や動物相について | |
| 第2節 旧石器時代のくらし | | |
| 第1項 旧石器時代前半期の石器文化 | 日本列島への人類到達時期と「石刃技法」について | |
| 第2項 旧石器時代後半期の石器文化 | 細石刃石器文化について | |
| 第3項 遊動的狩猟採集生活のすがた | 石器以外の遺物の発見から分かる狩猟対象等について | |
| 第3節 港区の旧石器時代遺跡 | | |
| 第1項 旧石器時代前半期の遺跡 | 萩藩毛利家屋敷跡遺跡について | |
| 第2項 旧石器時代後半期の遺跡 | 旧白金御料地内武家屋敷跡について | |
| コラム 広域テフラ火山灰 | 広域テフラ(火山から噴出した灰を含む総称)の概要について | |
| コラム C14炭素年代測定法 | 炭素の比率と原理を利用した年代測定方法について | |

| | | |
|--|--|---|
| 第3章 縄文時代 第1節 縄文時代の自然環境 第1項 気候と環境の変化 第2項 縄文海進と地形の変化 第2節 縄文時代のくらしと文化 第1項 早期の人々の活動 第2項 集落の発達 第3項 貝塚がつくられた時代 第4項 縄文時代の人びとの行方 第3節 港区の縄文時代遺跡 第1項 早期の遺跡 第2項 前期の遺跡 第3項 中期の遺跡 第4項 後期の遺跡 第5項 晩期の遺跡 コラム 旧石器時代と縄文時代の境界 コラム 珠状耳飾と装身具 コラム 貝と鱗の成長線 | 縄文時代における気候と環境の微視的な特徴について 縄文時代における海岸線を中心とする地形の変化について 縄文時代早期の港区域の様子や人びとと環境のかかりについて 縄文時代前期の港区域の様子について 縄文時代中・後期の港区域の様子について 縄文時代晩期の港区域の様子について 縄文時代（早期）の遺跡概要について 縄文時代（前期）の遺跡概要について 縄文時代（中期）の遺跡概要について 縄文時代（後期）の遺跡概要について 縄文時代（晩期）の遺跡概要について 御子柴石器文化と時代の境界の一見解について 伊皿子貝塚遺跡出土の装飾品の紹介 貝塚出土の貝・魚の鱗の分析から探る漁業の季節性について | 高山優 久保純子 斉藤進 高山優 高山優 高山優 高山優 高山優 渡辺丈彦 高山優 高山優 高山優 高山優 高山優 渡辺丈彦 高山優 |
| 第4章 弥生時代 第1節 弥生時代の自然環境 第2節 弥生時代のくらしと社会 第1項 弥生文化到来の頃 第2項 むらのくらしと社会 第3項 弥生時代の終焉と次代への胎動 第3節 港区の弥生時代遺跡 第1項 中期の遺跡 第2項 後期の遺跡 コラム プラント・オパール コラム 方形周溝墓 | 弥生時代の港区域の環境の特徴について 弥生時代中期の港区域の様子について 弥生時代のむらにおける生活について 古墳時代への移行期について 弥生時代（中期）の遺跡概要について 弥生時代（後期）の遺跡概要について 植物珪酸体をもつイネのプラント・オパールと稲作について 方形に溝をめぐらして墓域とし、その域内に設けた堅穴に埋葬した方形周溝墓について | 高山優 高山優 高山優 高山優 渡辺丈彦 高山優 |

【通史編 古代】

部分監修者：漆原徹

| 目次 ※項は変更あり | 内容 | 執筆者 |
|--|---|--|
| 序章 古代の港区域 | | 漆原徹 |
| 第1章 古墳時代 第1節 律令制以前の港区域 第2節 考古学からみる古墳時代の港区域 第3節 古墳時代のむらとくらし 第4節 芝丸山古墳と円墳群 第5節 港区の古墳時代遺跡 コラム (古墳の形態と構造) コラム (土師器と須恵器) | 古墳時代における港区域の概要について 考古学調査から明らかになる港区域の古墳時代について 古墳時代の人々の生活について 芝丸山古墳ほか、港区域に存在する円墳について 港区域に存在する古墳時代の遺跡について 古墳の形質的な概要について 古墳から出土される土師器と須恵器について | 小口雅史 大西雅也・高山優 大西雅也・高山優 大西雅也・高山優 大西雅也・高山優 大西雅也・高山優 |
| 第2章 律令時代 第1節 考古学からみる古代の港区域 コラム 伊皿子貝塚遺跡で発掘された旧石器時代のウシの骨に関して (仮) 第2節 武蔵国の設置 第3節 豊島郡と荏原郡 第4節 式内葦田神社 | 考古学的知見から明らかになる古代の港区域について 発見当初から弥生時代とされてきたウシの骨が理化学的分析結果により古代に属することが判明し、その経緯や出土の背景について紹介 古代の国の設置について 古代の郡の設置について 延喜式内社であり、現在の御田八幡神社である葦田神社について | 大西雅也・高山優 高山優 小口雅史 小口雅史 小口雅史 |
| 第3章 桜田・御田郷と飯倉御厨 第1節 桜田郷 第2節 御田郷 第3節 飯倉御厨 | (調整中) (調整中) (調整中) | 小口雅史 |
| 第4章 古代の景観 第1節 『万葉集』にみる古代の武蔵国 第2節 『延喜式』にみる武蔵国の物産 第3節 『更科日記』の竹芝物語 | 『万葉集』におさめられた武蔵国にまつわる歌について 『延喜式』に記された武蔵国の物産に関する条文について 『更科日記』のなかの「竹芝寺」の物語について | 小口雅史 |
| 第5章 古代末期 第1節 平将門の乱 第1項 南関東の武士 第2節 『今昔物語』にみえる武蔵国と港区 | (調整中) 『今昔物語』のなかの武蔵国・港区域に関する説話について | 小口雅史 |

| 目次 ※項は変更あり | 内容 | 執筆者 |
|-----------------|----------------------|------|
| 序章 中世の港区域 | | 漆原徹 |
| 第1章 鎌倉時代 | | 漆原徹 |
| 第1節 武蔵七党 | | |
| 第1項 南関東の武士団について | 鎌倉幕府と江戸氏などについて | |
| 第2節 南関東の中世荘園 | 飯倉御厨など港区の荘園について | |
| 第2章 室町時代 | | 漆原徹 |
| 第1節 南北朝の動乱と南関東 | 初期の関東経略などについて | |
| 第2節 小田原北条氏と南関東 | 両上杉氏・後北条氏などについて | |
| 第3節 港区の城館跡について | (調整中) | |
| 第3章 中世寺院 | | |
| 第1節 東国の真宗と阿佐布門徒 | | 永村眞 |
| 第1項 東国門徒の形成 | 東国における浄土門徒の形成過程について | |
| 第2項 阿佐布門徒とその展開 | (調整中) | |
| 第3項 本願寺と善福寺 | 本願寺と善福寺の関係について | |
| コラム 善福寺関連 | (調整中) | |
| 第2節 浄土宗の展開と増上寺 | | 永村眞 |
| 第1項 法然とその門葉 | 法然と彼の弟子について | 永村眞 |
| 第2項 東国の浄土宗 | 東国における浄土宗について | 永村眞 |
| 第3項 聖聡とその門流 | 聖聡と彼の弟子による浄土宗の展開について | 永村眞 |
| コラム 中世の板碑について | (調整中) | 千々和到 |
| 参考文献 | | — |
| 図版一覧 | | — |
| 協力者 | | — |
| 執筆者 | | — |
| 関係者 | | — |
| 通巻一覧(目次) | | — |
| 奥付 | | — |

| 目次 ※項は変更あり | 内容 | 執筆者 |
|---|---------------------------|----------------------------------|
| 口絵 平和都市宣言 刊行のごあいさつ 刊行にあたって 凡例 目次 | | — — 区長 編さん委員長 — — |
| 序章 近世の港区域 | | |
| 第1節 近世のはじまりと江戸の成立 | 第1章への導入などについて | 岩淵令治 |
| 第2節 身分別居住による分節的構造 | | 岩淵令治 |
| 第1項 武家地（概要説明） | 第2章の武家地の概要について | |
| 第2項 寺社地（概要説明） | 第3章の寺社地の概要について | |
| 第3項 町人地（概要説明） | 第4章の町人地の概要について | |
| 第3節 中心部からの展開 | | 岩淵令治 |
| 第4節 港区の地域ごとの特色 | 第1章の旧区ごとの特色などについて | 岩淵令治 |
| 第5節 港区の幕末 | 第6章の幕末期における港区の特色などについて | 岩淵令治 |
| 第6節 近世遺跡の概要 | | 高山優 |
| 第1項 近世遺跡調査・研究の歩み | 江戸の範囲と区内発掘調査の歴史などについて | |
| 第2項 近世遺跡の概況 | 区内で発掘された近世遺跡の概況について | |
| 第3項 近世都市遺跡「江戸」と「江戸遺跡」 | 遺跡と都市の範囲の考え方について | |
| 第1章 都市開発と災害 | | |
| 第1節 初期の都市開発 | | 岩本 馨 |
| 第1項 （江戸区によって開発過程をたどる） | 芝区・麻布区・赤坂区の範囲、都市の拡大などについて | |
| 第2項 武家地（土佐山内家の芝下屋敷） | 大名の屋敷拝領過程などについて | |
| 第3項 寺社地（寺町の成立/移転） | 寺院の起立・転入・転出、寺町の成立などについて | |
| 第4項 町人地 | 東海道沿いの町、百姓町屋の成立などについて | |
| 第2節 考古学でみる江戸のまちづくり | | 斉藤進 |
| 第1項 低地と海浜部の造成 | 調査結果による造成の歴史などについて | 高山優 |
| 第2項 高台の造成 | 調査結果による高台造成の特徴などについて | 斉藤進 |
| 第3項 上下水道の整備とまちづくり | 敷設状況や構造などについて | 岩淵令治 |
| 第4項 港区全般の江戸時代の災害について | 近世の災害の概観などについて | 合田恵美子 |
| コラム 遺跡にみる災害の痕跡 | 火災や地震の災害痕跡などについて | 鈴木毅彦・高山優 |
| コラム 宝永の富士山噴火と火山灰について | 火山灰の検出状況と分析結果について | |
| 第2章 武家地 | | |
| 第1節 大名屋敷 | | |
| 第1項 大名屋敷とは | 大名屋敷の概説と分布などについて | 宮崎勝美 |
| 第2項 赤坂地区の大名屋敷 | 紀州藩徳川家赤坂中屋敷などについて | 宮崎勝美 |
| 第3項 麻布地区の大名屋敷 | 磐城平藩内藤家六本木下屋敷などについて | 宮崎勝美 |
| 第4項 芝・高輪地区の大名屋敷 | 久留米藩有馬家三田上屋敷などについて | 宮崎勝美 |
| 第5項 町方・在方混在地域の大名屋敷 | 抱屋敷・町並屋敷などについて | 宮崎勝美 |
| 第6項 幕末期の大名屋敷 | 長州藩邸没収・薩摩藩邸焼討などについて | 宮崎勝美 |
| 第7項 八戸藩 | 外様小藩の拝領屋敷の変遷と内部構造などについて | 岩淵令治 |
| コラム 武家屋敷の神仏公開（場所確認中） | 福岡藩赤坂中屋敷の事例などについて | 岩淵令治 |
| 第2節 旗本・御家人屋敷 | | 渋谷葉子 |
| 第1項 旗本・御家人とは | 旗本・御家人の定義などについて | |
| 第2項 旗本・御家人屋敷の分布状況 | 区内の旗本居住状況、大縄地などについて | |
| 第3項 旗本・御家人屋敷の種別 | 居屋敷・拝領屋敷などについて | |
| 第4項 旗本・御家人屋敷の内部構造と利用 | 屋敷絵図・施設・居住者などについて | |
| 第3節 愛宕下の旗本・御家人屋敷（武家地について） | | 渋谷葉子 |
| 第1項 愛宕下地域の区分と地理 | 愛宕下地域の範囲などについて | |
| 第2項 芝口地区の旗本・御家人屋敷（交代寄合本堂家） | 地区の特徴と本堂家などについて | |
| 第3項 愛宕下地区の旗本・御家人屋敷 | 概要と変遷・特徴などについて | |
| 第4項 西久保地区の旗本・御家人屋敷 | 概要と変遷・特徴などについて | |
| 第5項 芝口・愛宕下・西久保地区の屋敷地の実態と景観 | 各地区の変遷の特色、居住実態と景観などについて | |
| 第4節 赤坂の武家屋敷について（武家地について） | | 滝口正哉 |
| 第1項 大名屋敷 | 紀州藩・浅野家・黒田家・真田家・吉川家などについて | |
| 第2項 旗本屋敷 | 森山家・勝家などについて | |
| 第3項 御家人屋敷 | 組屋敷・拝領屋敷などについて | |
| 第5節 発掘された武家屋敷跡 | | 高山優 |
| 第1項 発掘された大名屋敷跡 | 異なる大名屋敷遺跡の比較などについて | 合田恵美子 |
| 第2項 発掘された旗本屋敷跡 | 花房家屋敷跡の調査成果などについて | |

| 目次 ※項は変更あり | | 内容 | 執筆者 |
|------------|-----------------------------|--------------------------|------|
| 第3章 寺社地 | | | 上野大輔 |
| 第1節 | 近世の宗教 | | |
| | 第1項 宗教文化の成立 | 人々を取り巻く宗教的環境などについて | |
| | 第2項 幕府の宗教政策 | 宗教勢力の編入や法度制定などについて | |
| 第2節 | 寺院組織 | | |
| | 第1項 寺院の建立 | 港区寺院の特徴などについて | 上野大輔 |
| | 第2項 本末制度 | 本末制度の概要、善福寺の事例などについて | 上野大輔 |
| | 第3項 寺檀制度 | 旦那寺と檀家の関係の事例などについて | 上野大輔 |
| | 第4項 触頭制度 | 触頭寺院による配下の統制などについて | 上野大輔 |
| | 第5項 檀林と教学 | 教義・儀礼の研究、宗教者の論争などについて | 上野大輔 |
| | 第6項 寺院・僧侶の格式 | 朝廷や公家社会とのつながりなどについて | 上野大輔 |
| | コラム 大名・大名家臣と菩提寺 | 盛岡藩・八戸藩と金地院などについて | 岩淵令治 |
| 第3節 | 大寺院の空間構造と社会（増上寺） | | 伊坂道子 |
| | 第1項 境内地の発展と将軍家の変遷 | 内地の空間構成の展開過程と徳川将軍家について | |
| | 第2項 江戸城との関係 | 増上寺と江戸城の関係について | |
| | 第3項 山内寺院の歴史的建造物と所蔵品 | 増上寺の寺院建築とについて | |
| | 第4項 門前地 | 増上寺の門前地の構成について | |
| | 第5項 関係領域 | 増上寺を取り巻く諸環境について | |
| | コラム 明治、大正、昭和、平成、芝と上野の今 | 近代以降の増上寺周辺を取り巻く環境の変化について | |
| 第4節 | 神社の社会的展開 | | 滝口正哉 |
| | 第1項 愛宕社 | 社の概説、町人信仰などについて | |
| | 第2項 赤坂氷川神社・麻布氷川明神 | 両社の概説、祭礼などについて | |
| | 第3項 芝神明 | 社の概説、市などについて | |
| | 第4項 修験 | 大乘院・鳳閣寺などについて | |
| | 第5項 稲荷 | 町方書上掲載の稲荷などについて | |
| 第5節 | 寺町の空間構造（建築からみる） | | 中村琢巳 |
| | 第1項 はじめに | 現存する近世寺社建築の一覧などについて | |
| | 第2項 町人ゆかりの寺社建築 | 明王院・金刀比羅宮などについて | |
| | 第3項 武家ゆかりの寺社建築 | 実相寺・東禅寺などについて | |
| | 第4項 幕府ゆかりの寺社建築 | 赤坂氷川神社・明称寺などについて | |
| 第6節 | 発掘された寺院跡 | | 高山優 |
| | 第1項 考古学でみる寺院境内と上行寺跡・門前町屋跡遺跡 | 上行寺跡・門前跡の調査結果などについて | |
| | 第2項 増上寺徳川将軍家霊廟の世界 | 考古学的調査による徳川家霊廟の特徴などについて | |
| | 第3項 名のある人びとの墓・名もなき人びとの墓 | 墓所の特徴や近世墓からみえる側面などについて | |
| | コラム 人骨でみる江戸の人びと | 顔の形質・複顔などについて | |
| 参考文献 | | | — |
| 図版一覧 | | | — |
| 協力者 | | | — |
| 執筆者 | | | — |
| 関係者 | | | — |
| 通巻一覧（目次） | | | — |
| 奥付 | | | — |

【平成32年3月刊行】 第3巻

目次案【通史編 近世(下)】

部分監修者:岩淵令治

| 目次 ※項は変更あり | 内容 | 執筆者 |
|---|----------------------------|--------|
| 口絵 | | — |
| 平和都市宣言 | | — |
| 刊行のごあいさつ | | 区長 |
| 刊行にあたって | | 編さん委員長 |
| 凡例 | | — |
| 目次 | | — |
| 第4章 町人地 | | |
| 第1節 町の運営 | | 高山慶子 |
| 第1項 名主の役割 | 渋谷長谷寺門前・芝田町の名主などについて | |
| 第2項 町入用 | 芝松本町の町入用などについて | |
| 第3項 町運営の実態 コラム 芝松本町名主浦口清左衛門の「公私日記」 | 青山御手大工町の運営などについて (調整中) | |
| 第2節 町屋敷を持つ | | |
| 第1項 拝領町屋敷の地主 | 南方町屋敷帳分析などについて | 高山慶子 |
| 第2項 沽券図を読み解く | 二葉町・兼房町などの沽券図の分析などについて | 岩淵令治 |
| 第3項 赤坂での町屋敷経営 | (調整中) | 岩淵令治 |
| 第3節 庶民の世界 | | |
| 第1項 門前町屋の暮らし① 善福寺門前 | 善福寺門前町の町法などについて | 岩淵令治 |
| 第2項 門前町屋の暮らし② 大養寺門前 | 西久保大養寺門前の暮らしなどについて | 岩淵令治 |
| 第3項 人別長を読む① 芝神谷町 | 芝神谷町の人別帳などについて | 高山慶子 |
| 第4項 人別長を読む② 渋谷長国寺門前 コラム 撮影された門前町の街並み | 渋谷長国寺門前の人別帳などについて (調整中) | 高山慶子 |
| 第4節 商工業のにぎわい | | |
| 第1項 豪商三井家の越後屋芝口店 | 奉公人・経営などについて | 滝口正哉 |
| 第2項 海辺の生業 | 漁業・魚市場などについて | 高山慶子 |
| 第3項 盛り場の小営業 | (調整中) | 高山慶子 |
| 第4項 武家地のなかの町場 コラム 大名家出入の商職人 | (調整中) (調整中) | 岩淵令治 |
| 第5節 村と在方分 | | |
| 第1項 (調整中) | (調整中) | 工藤航平 |
| 第6節 発掘された町屋跡 | | |
| 第1項 考古学でみるくらしの諸相 | 空間構成や暮らしの様子などについて | 高山優 |
| 第2項 考古学でみる町人の生業 | 雑魚場跡・铸造関係遺跡などについて | 高山優 |

| 目次 ※項は変更あり | | 内容 | 執筆者 |
|------------|-----------------------------------|---------------------------|-------|
| 第5章 | 文化 | | |
| 第1節 | 浮世絵を産む「場」としての芝界限 | | 大久保純一 |
| | 第1項 江戸文化を読み解く（仮） | 既刊の港区区が描く江戸末期の人物像などについて | |
| | 第2項 芝神明境内における浮世絵製作 | 盛り場における制作・即売などについて | |
| | 第3項 芝界限を「場」とした浮世絵師と戯作者たちの人脈 | 芝神明界限の絵師などについて | |
| | 第4項 和泉屋市兵衛、丸屋甚八、若狭屋与市、佐野屋喜兵衛などの活動 | 版元の傾向、地本問屋・絵双紙屋街の形成などについて | |
| | 第5項 横浜絵市場への進出 | 和泉屋市兵衛による販売などについて | |
| 第2節 | 年中行事 | | 滝口正哉 |
| | 第1項 武家 | 武家における年中行事について | |
| | 第2項 町人 | 町人の年中行事について | |
| | 第3項 寺社 | 寺社における年中行事について | |
| 第3節 | 信仰と行楽 | | 滝口正哉 |
| | 第1項 寺社参詣 | 参詣客を集めた寺社について | |
| | 第2項 願掛けと講 | 信仰と参拝講について | |
| | 第3項 花見と行楽 | 江戸の名所と行楽について | |
| 第4節 | 祭礼 | | 滝口正哉 |
| | 第1項 赤坂氷川祭 | 祭の概要などについて | |
| | 第2項 麻布氷川祭 | 武江年表・松窓雑録記載事項などについて | |
| | 第3項 芝神明だらだら祭 | 祭の概要などについて | |
| 第5節 | 寺社の興行 | | 滝口正哉 |
| | 第1項 寺社経営と勸化 | 寺社における勸化・勸進について | |
| | 第2項 開帳 | 芝神明・愛宕社・青山善光寺などについて | |
| | 第3項 富くじ | 芝神明・愛宕社・赤坂氷川神社などについて | |
| 第6節 | 盛り場の賑わい | | 滝口正哉 |
| | 第1項 盛り場の変化・発展 | 芝神明周辺の盛り場について | |
| | 第2項 宮地芝居・寄席・岡場所・歌舞音曲・芸能・見世物 | (調整中) | |
| 第7節 | 奉納物 | | 滝口正哉 |
| | 第1項 絵馬 | 赤坂氷川神社の大絵馬などについて | |
| | 第2項 灯籠・天水桶・手水鉢ほか | 現存するもの、増上寺から流出したものなどについて | |
| 第8節 | 教育 | | |
| | 第1項 (調整中) | (調整中) | 工藤航平 |
| | コラム 滞在者がみた江戸 | 短期・中期滞在者の行動などについて | 五十嵐和也 |
| 第6章 | 幕末期 | | |
| 第1節 | 幕末の江戸湾防備と品川台場 | | |
| | 第1項 台場と海防 | 台場と対外危機の概説などについて | 富川武史 |
| | 第2項 ペリー来航、江戸と近郊地域の臨時警備 | 鳥取藩の江戸湾防備などについて | 富川武史 |
| | 第3項 御台場御用掛体制の構築と芝・高輪周辺寺社の利用 | 台場普請事業への動員と寺社への分宿などについて | 富川武史 |
| | 第4項 冥加金、構築資材の調達と地域への負担 | 木材・石材・土砂の調達などについて | 富川武史 |
| | コラム 発掘された品川台場 | 港区教育委員会による発掘などについて | 富川武史 |
| | 第5項 品川台場の警備体制と藩邸の利用変化 | 警備を担当した藩などについて | 富川武史 |
| | コラム 国指定史跡「品川台場」のいま | 品川台場の保存と活用などについて | 富川武史 |
| | コラム 萩藩の江戸湾防備と麻布藩邸 | 江戸に滞在した陪臣たちなどについて | 重田麻紀 |
| 第2節 | 外国公館と外国人 | | 吉崎雅規 |
| | 第1項 修好通商条約とその使節 | ハリスとの交渉・条約締結などについて | |
| | 第2項 江戸の外国公館 | 善福寺・東禅寺・済海寺などについて | |
| | 第3項 外国人と庶民 | 住民と外国人の接触などについて | |
| | 第4項 外国人襲撃事件 | 伝吉暗殺事件・ヒュースケン暗殺事件などについて | |
| | 第5項 外国公館の警備 | 大名や別手組による警備体制などについて | |
| | 第6項 最幕末期の港区と外国人 | 治安の落ち着き・高輪接遇所などについて | |
| 参考文献 | | | — |
| 図版一覧 | | | — |
| 執筆者 | | | — |
| 協力者 | | | — |
| 執筆者 | | | — |
| 通巻一覧（目次） | | | — |
| 奥付 | | | — |
| 付図 | | | — |

構成案【通史編 近代】

部分監修者：寺崎修・都倉武之

| 構成案 ※節・項は変更あり | | 執筆者 |
|-------------------------------|--|--|
| 序章 近代の港区域 | | 寺崎修・都倉武之 |
| 第1章 明治前期 | | |
| 第1節 都市計画と土地利用－明治維新と港区域の変化 | 第1項 明治維新と武家地の転用 第2項 都市施設の整備 第3項 市街地の発展 | 門松秀樹 |
| 第2節 政治－区政の誕生 | 第1項 新政府支配の開始 第2項 戸籍編成から区政へ 第3項 町の変容 | 松沢裕作 |
| 第3節 教育－近代教育のはじまり | 第1項 初等教育の成立 第2項 中等教育等の動向 第3項 幼児教育の状況 第4項 社会における教育 | 久保田哲・野村和・小山みずえ |
| 第4節 経済 | 第1項 手工業による消費財生産 第2項 殖産興業政策下における工業の展開 第3項 第一次産業の展開 第4項 商業活動の動向 第5項 交通網の進展 | 高柳友彦 |
| 第5節 衛生、社会事業、警察、消防 | 第1項 伝染病の流行 第2項 社会事業 第3項 公安・消防 | 小島和貴 小島和貴 永田尚三 久保田哲・高田久実 |
| 第6節 宗教－神仏分離とキリスト教 | 第1項 仏教－増上寺を中心に 第2項 神道－近代社格制度と港区 第3項 キリスト教－実質的禁制のなかで 第4項 商業活動の動向 第5項 交通網の進展 | |
| 第7節 軍事・兵事－近代陸海軍の創設過程 | 第1項 東京鎮台の設置 第2項 徴兵制度の開始 第3項 西南戦争への動員状況 第4項 鎮台から師団へ | 門松秀樹 |
| 第2章 明治後期 | | |
| 第1節 都市計画と土地利用－東京・市区改正事業の展開と港区 | 第1項 市区改正事業の展開 第2項 明治後期の芝・芝浦 第3項 明治後期の麻布・赤坂 | 福沢真一 |
| 第2節 政治－地方自治制のなかの区役所と住民 | 第1項 市制の施行と区の行政 第2項 公民団体と区会・市会・府会 第3項 住民組織の諸相 第4項 都市民衆騒擾の時代 | 松沢裕作 |
| 第3節 教育－近代教育の展開 | 第1項 初等教育制度の整備 第2項 中等教育等の進展 第3項 幼児教育の状況 第4項 近代化の進展と社会における教育 | 久保田哲・野村和・小山みずえ |
| 第4節 経済 | 第1項 商業地の形成と繁華街の発展 第2項 工場制工業の展開 第3項 市街電車など都市交通の開通 第4項 第一次産業と卸売市場の展開 | 高柳友彦・三科仁伸 |
| 第5節 衛生、社会事業、警察、消防 | 第1項 伝染病研究の始動 第2項 社会事業 第3項 公安 第4項 消防 | 小島和貴 小島和貴 永田尚三（調整中） 永田尚三 久保田哲・高田久実 |
| 第6節 宗教－伝道方法の模索 | 第1項 キリスト教の公認 第2項 仏教・神道勢力の動向 第3項 日清戦争・日露戦争と宗教 | |
| 第7節 軍事・兵事－日清・日露戦争 | 第1項 日清戦争への動員状況 第2項 日露戦争への動員状況 | 門松秀樹 |

| | | |
|--|--|--|
| <p>第3章 戦間期</p> <p>第1節 都市計画と土地利用 第1項 市街地の発展 第2項 (芝浦) 工業地帯の発展 第3項 関東大震災と震災復興 第4項 人口の飽和と市街地 第5項 東京港の開港</p> <p>第2節 戦間期の政治・行政 第1項 戦間期の区行政 第2項 戦間期の政治 第3項 戦間期の地域住民組織</p> <p>第3節 教育—近代教育の拡充 第1項 初等教育の改革と充実 第2項 中等教育等の拡充 第3項 幼児教育の状況 第4項 社会教育の展開</p> <p>第4節 経済 第1項 商業の進展 第2項 質物からみた生活・金融機関 第3項 工業の進展 第4項 工業地帯の形成と埋立地 第5項 生活インフラの進展</p> <p>第5節 衛生、社会事業、警察、消防 第1項 海外諸思想の紹介と労働者への支援 第2項 社会事業と方面委員制度 第3項 社会事業 第4項 公安 第5項 消防</p> <p>第6節 宗教—乃木神社と霊友会の誕生 第1項 乃木神社 第2項 霊友会</p> <p>第7節 軍事・兵事—軍縮から動乱へ 第1項 軍縮体制と徴兵 第2項 満州事変以降の兵事</p> | | <p>高柳友彦</p> <p>中村元</p> <p>久保田哲・野村和・小山みずえ</p> <p>高柳友彦・三科仁伸</p> <p>小島和貴 小島和貴 小島和貴 永田尚三 (調整中)</p> <p>久保田哲・高田久実</p> <p>門松秀樹</p> |
| <p>第4章 戦時体制</p> <p>第1節 都市計画と土地利用 第1項 戦時体制と工業地帯 第2項 戦局の悪化と空襲</p> <p>第2節 戦時下の政治・行政 第1項 戦時下の区行政 第2項 戦時下の政治 第3項 戦時下の地域住民組織</p> <p>第3節 戦時の生活と区民 第1項 戦時の生活 ※末端の実態 第2項 建物疎開 第3項 空襲 ※個別事例の実態</p> <p>第4節 教育 第1項 国民学校令 第2項 中学校令 ※勤労働員含む 第3項 社会教育 第4項 徴兵猶予の停止 第5項 学童疎開 (柄越)</p> <p>第5節 経済 第1項 軍需工場の増加 下請工場の整備 第2項 区内経済における統制の影響</p> <p>第6節 衛生、社会事業 警察、消防 第1項 結核対策 第2項 公安 第3項 消防</p> <p>第7節 宗教—協力・弾圧・戦災</p> <p>第8節 軍事・兵事—太平洋戦争 第1項 ノモンハン事件への動員状況 第2項 太平洋戦争への動員状況</p> | | <p>高柳友彦</p> <p>中村元</p> <p>都倉武之</p> <p>久保田哲・野村和・小山みずえ</p> <p>高柳友彦</p> <p>小島和貴 永田尚三 (調整中) 永田尚三 久保田哲 門松秀樹</p> |
| <p>第5章 文化と文化財</p> <p>第1節 文化—江戸と東京の交差点 第1項 旧芝区 第2項 旧麻布区 第3項 旧赤坂区 第4項 ラジオ</p> <p>第2節 文化財 第1項 史跡 文化財 第2項 現存する近代建築 第3項 発掘された近代遺跡</p> | | <p>後藤新</p> <p>都倉武之</p> |

構成案【通史編 現代】

部分監修者：大山耕輔・石上泰州

| 構成案 ※章・節・項ともに変更あり | 執筆者 |
|--|--|
| 序章 戦後復興から国際都市へのあゆみ | 大山耕輔・石上泰州 |
| 第1章 港区の誕生 第1節 終戦と都制改革 第2節 東京都区域整理委員会の発足 第3節 統合をめぐる各区の動向 第4節 港区の発足 コラム 区の紋章・区歌・みなと音頭 コラム 区の木・区の花 コラム 名誉区民 | 新垣二郎 新垣二郎 新垣二郎 新垣二郎 石上泰州 石上泰州 石上泰州 |
| 第2章 港区政70年のあゆみ 第1節 復興から高度経済成長下の港区（1945年～1974年） 第2節 区長公選と安定成長下の港区（1975年～1996年） 第3節 人口増時代の港区（1997年～2020年） コラム 二度の改元対応 | 名取良太・石上泰州・箕輪允智 名取良太・石上泰州・箕輪允智 名取良太・石上泰州・箕輪允智 石上泰州 |
| 第3章 港区の人口と社会 第1節 戦後の人口移動 第2節 港区の人口変遷 第3節 港区の社会地図 第4節 港区の将来推計人口 | 浅川達人 |
| 第4章 港区の町域と地名 第1節 町域の歴史 第2節 住居表示事業の実施 | 新垣二郎 |
| 第5章 区民のくらしと地域社会 第1節 町内会・自治会の再出発 第2節 区内町内会・自治会の実相 第3節 港区行政との関わり 第4節 区民の暮らしの変化 | 新垣二郎 新垣二郎 松林秀樹・小山雄一郎（共著） — |
| 第6章 港区の税財政 第1節 港区誕生から高度成長前夜まで（1947（S22）年度～1954（S29）年度） 第2節 高度成長期（1955（S30）年度～1970（S45）年度） 第3節 安定成長期（1971（S46）年度～1985（S60）年度） 第4節 バブル経済期（1986（S61）年度～1990（H2）年度） 第5節 バブル経済の崩壊から現在まで（1991（H3）年度～） | 佐藤公俊・天羽正継・箕輪允智 |
| 第7章 都市整備とまちづくり（1）開発と街づくり 第1節 敗戦と接収：占領による大きな街の変化（1945-50） 第2節 占領の終了と特需景気（1950-55） 第3節 高度経済成長期の始まりとまちづくり（1955-60） 第4節 東京オリンピックとまちづくり（1960-65） 第5節 アフターオリンピック：いざなぎ景気と高度経済成長の終焉 第6節 不景気の時代：ニクソン・ショックと石油ショック（1970-1975） 第7節 低成長期からバブル経済期のまちづくり 第8節 バブル崩壊から少子高齢化・SDGsに対応したまちづくりへ | 中村仁 中村仁 中村仁 中村仁 中村仁 中村仁 三田妃路佳 三田妃路佳 |
| 第8章 都市整備とまちづくり（2）環境の整備 第1節 公害対策から環境対策へ（1945年～1998年） 第2節 環境政策の進展（1999年～2008年） 第3節 環境先進都市港区（2009年～2020年） | 白川展之・小田勇樹 |

| | |
|--|--|
| <p>第9章 安心・安全な港区を目指して</p> <p>第1節 昭和20年代（都区制度下の防災と治安等）</p> <p>第2節 昭和30～40年代（災害対策基本法以降の港区等）</p> <p>第3節 昭和50年代～昭和末期（消防体制の進展等）</p> <p>第4節 平成時代（大規模災害と危機管理等）</p> | 永田尚三・福沢真一 |
| <p>第10章 港区の産業の発展</p> <p>第1節 港区の産業構造の変化</p> <p>第2節 戦後復興と港区の産業</p> <p>第3節 高度成長期の港区の産業の発展</p> <p>第4節 オイルショックと消費者保護時代の産業</p> <p>第5節 バブル経済と主要産業の変化</p> <p>第6節 バブル崩壊とグローバル時代に対応した産業</p> | 三田妃路佳 三田妃路佳 三田妃路佳 三田妃路佳 三田妃路佳 三田妃路佳・中村仁 |
| <p>第11章 働きやすい社会を目指す港区の取り組み</p> <p>第1節 就労支援体制の確立と事業の展開（昭和期）</p> <p>第2節 社会環境の変化に対応した就労支援施策の展開（平成前半期）</p> <p>第3節 男女平等推進に向けた新たな就労支援施策の展開（平成後半期）</p> | 田口和雄・土屋直樹・前浦徳高 |
| <p>第12章 健やかな区民生活を求めて</p> <p>第1節 戦後復興期</p> <p>第2節 高度経済成長期</p> <p>第3節 少子・高齢化の進展</p> | 小島和貴 |
| <p>第13章 福祉のまち・港区</p> <p>第1節 戦後混乱期の概況</p> <p>第2節 戦後復興期（福祉三法の整備）※凡そ1952年まで</p> <p>第3節 高度経済成長期（福祉六法の整備）※凡そ1975年まで</p> <p>第4節 高齢化社会（福祉の普遍化）※凡そ2000年まで</p> <p>第5節 高齢社会、少子社会（福祉の市場化）※2001年以降</p> | 西田恵子 |
| <p>第14章 ”教育の港区”の展開</p> <p>第1節 戦後の教育改革</p> <p>第2節 高度経済成長と港区教育</p> <p>第3節 教育の混乱と「ゆとり」路線</p> <p>第4節 区教育行政の現状と課題</p> | 進邦徹夫 進邦徹夫 村上祐介 村上祐介 |
| <p>第15章 港区の文化発信と国際性</p> <p>第1節 港区の文化・国際化の概況</p> <p>第2節 戦後の文化と外国人増加に伴う街の国際化（～H15年頃まで）</p> <p>第3節 文化芸術振興と国際都市港区（H15～現在）</p> <p>第4節 2つのオリンピックと港区</p> | 中村仁 中村仁 中村仁 松林秀樹 |

目次案【自然編】

部分監修者:高山優

| 目次 ※項は変更あり | 内容 | 執筆者 |
|---|-------------------------------|----------------------------------|
| 口絵 平和都市宣言 刊行のごあいさつ 刊行にあたって 凡例 目次 | | — — 区長 編さん委員長 — — |
| 序章 港区の自然 | | 高山優 |
| 第1章 港区の地形と地質 | | |
| 第1節 港区の地形の概要 -東京湾に面した武蔵野台地東端の地形- | | 久保純子 |
| 第1項 台地の地形 | 港区域の一部を成す武蔵野台地の地形について | |
| 第2項 台地を開折する谷 | 武蔵野台地に形成された谷について | |
| 第3項 沖積低地（谷底、東京湾岸） | 港区域の低地部および海浜部を形成する沖積低地について | |
| 第2節 地下構造と地質 | | 鈴木毅彦 |
| 第1項 北米プレートとフィリピン海プレートの上に位置する港区 | 港区域の地下に存在するプレートについて | |
| 第2項 関東平野の地下に広がる上総・下総層群 | 関東平野の基盤を成す堆積層群について | |
| 第3項 台地をつくる堆積物と関東ローム層 | 台地を構成する物質・土壌について | |
| 第4項 低地に分布する沖積層 | 低地部地下に存在する沖積層について | |
| 第3節 地形の変遷 | | |
| 第1項 日本列島と関東平野の成立 | 関東平野の成立過程について | 鈴木毅彦 |
| 第2項 プレート運動と上総トラフの陸化 | 関東地方における地殻変動について | 鈴木毅彦 |
| 第3項 氷河性海面変動と地形・地質 | 氷河の盛衰による海面変動について | 久保純子 |
| 第4項 縄文海進と沖積低地 | 縄文時代前期における海面上昇とその後の沖積低地形成について | 久保純子 |
| 第5項 歴史時代の地形変化 | 有史時代における地形の変化について | 久保純子 |
| コラム 埋め立てによる海岸線の変化（人工地形） | 港区域における埋め立てとそれに伴う海岸線の変化について | 久保純子 |
| コラム 23区で一番坂の多い区 | 港区に多数ある坂と地形の特徴について | 久保純子 |
| 第2章 港区の気候と気象 | | 高橋日出男 |
| 第1節 世界や日本における港区の気候・気象 | | |
| 第1項 はじめに | | |
| 第2項 気候概要-世界の気候の多様性から- | 世界の気候のなかでの港区の位置づけについて | |
| 第3項 気候・気象の季節性 | 港区域の四季それぞれの気候について | |
| 第2節 気候・気象の特徴 | | |
| 第1項 降水 | 港区域の降水量について | |
| 第2項 気温 | 港区域の気温について | |
| 第3項 相対湿度 | 港区域の相対湿度について | |
| 第4項 風 | 港区域の風について | |
| 第5項 日照時間と日射量 | 港区域の日照時間と日射量について | |
| 第6項 大気汚染 | 港区域の大気汚染について | |
| 第3節 気候の変化と変動 | | |
| 第1項 地質時代から歴史時代の気候 | 港区域における先史時代からの気候の変化について | |
| 第2項 観測時代の気候変化 | 近現代の気候の変化について | |
| 第4節 港区における気象資料と気象災害情報 | | |
| 第1項 気象観測の歴史と観測資料の概要 | 気象観測史と観測関係資料について（調整中） | |
| 第2項 気象災害に関する情報 | | |
| コラム 都市気候 | 港区域の特徴である都市気候について | |
| コラム 地球温暖化 | 港区域における地球温暖化の影響について | |
| コラム 海陸風（と山谷風） | 海浜地域の特徴である海陸風について | |
| コラム 大気現象の時間・空間スケール | （調整中） | |

| | | |
|---|---|---|
| <p>第3章 港区の生物</p> <p>第1節 港区の生物の歴史と特徴</p> <p>第1項 生物の歴史的移り変わり</p> <p>第2項 生物学的特徴</p> <p>第3項 みどりの分布</p> <p>第2節 港区に生息する生物</p> <p>第1項 陸上の植物</p> <p>第2項 陸上の動物</p> <p>第3項 水辺の生物</p> <p>第4項 在来種と外来種</p> <p>第5項 四季を彩る生き物たち</p> <p>コラム ビオトープとエコロジカルネットワーク</p> <p>コラム 希少生物</p> <p>コラム 天然記念物</p> | <p>有楽町海進以前の関東平野や植生・動物の歴史的移り変わりについて</p> <p>潜在的な生物相や都市型自然環境について</p> <p>緑被地の面積が区の面積に占める割合、みどりの豊かさ等について</p> <p>陸上植物の概要、コケ類やキノコ類等について</p> <p>土壌植物や昆虫類・クモ類・両生類・爬虫類・哺乳類等について</p> <p>水生植物や陸水域・海域の低生生物、魚類について</p> <p>港区に生息する在来種と外来種について</p> <p>春夏秋冬それぞれに見える生物について</p> <p>生物の生息空間と港区の生態系ネットワークについて</p> <p>港区域に生息する希少生物について</p> <p>港区域に存在する天然記念物について</p> | <p>河野博</p> |
| <p>第4章 自然の歴史と人びと</p> | <p>都市に住む人びとと自然とかかわりの歴史や今後について</p> | <p>高山優・岡崎完樹</p> |
| <p>参考文献</p> <p>図版一覧</p> <p>協力者</p> <p>執筆者</p> <p>関係者</p> <p>通巻一覧 (目次)</p> <p>奥付</p> | | <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> <p>—</p> |